

## あとがき

グローバル化と情報が瞬時に伝わるデジタル化が進み、教育現場や教師の役割にも変化が見られます。その動きは日本国内にとどまらず世界各国に共通した教育課題となっています。米デューク大学のキャシー・デビッドソン教授は、「2011年度に米国の小学校に入学した子どもの65%は、大学卒業時に今は存在しない職業に就くだろう」と述べています。また、英オックスフォード大学の研究である「雇用の将来」（2013年9月）によると、今後20年のIT化の影響で、米国における702ある職業のうち、およそ半分が失われる可能性があるとしています。

このような激動の時代を生きる子どもたちは、自ら考え、判断し、行動するための生きた学力を身につける必要があります。本校では、「つよく かしこく うつくしく」という学校教育目標の達成に向かって取り組みを続け、社会がどんなに変化しても知識基盤社会を強く生き抜く力を身につけるよう、研究を進めてまいりました。

平成28年12月の中央教育審議会の答申を受け、平成29年3月31日付で新しい学習指導要領が告示されました。小学校では平成32年度より次期学習指導要領に基づく教育が全面実施されます。今回の改訂では、「社会に開かれた教育課程」を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善が求められています。また、各教科の特質を「見方・考え方」という観点で捉え、それに基づいて育成を目指す「資質・能力」が再整理されました。小学校においては、プログラミング学習や外国語科の導入が計画されています。現行の学習指導要領では、小学校における英語教育は「聞くこと」、「話すこと」を中心とした「外国語活動」を5、6年生で実施しています。これが次期学習指導要領においては、年間70単位時間の「外国語」科目となります。また、3、4年生では年間35単位時間の「外国語活動」の時間が追加されます。

本年度、相川小学校校内研究会では、次期学習指導要領の全面実施を見据え、外国語活動に関する実践的研究を進めてまいりました。研究仮説を検証することに時間を割くのではなく、実践を重ね、課題を探る野外的科学的な研究スタイルを重視しました。3つの授業が提供され、研究主任の示す研究の視点を研究同人全員が意識しながら課題の発掘に取り組んでまいりました。外国語活動の対象となっていない1、2年生も、業前に外国語に親しむ活動に取り組み、教職員全員が実践に接する体制を整えました。実践重視の研究から得られた課題解決に今後取り組み、万全の体制で、平成32年度の次期学習指導要領全面実施を迎えようとしています。

最後になりましたが、本研究推進のために御指導、御支援を賜りました諸先生方、関係機関の皆様には、心から感謝を申し上げます。

教 頭 桐山 賢一

### 平成30年度 研 究 同 人

校 長	山 坂 洋	2 組	○村 松 宏 美
教 頭	桐 山 賢 一	4 年 1 組	◇数 野 妙 子
教務主任	乙 黒 誉 雅	2 組	小 澤 裕 紀
教務副主任	池 谷 佳 雄	5 年 1 組	弦 間 文
教 務	高 村 弥 生	2 組	岩 間 一 郎
	岡 田 みどり	6 年 1 組	鷹 野 実 加
ひまわり学級	戸 島 智 世	2 組	〇〇岩 下 和 美
たんぼ学級	坂 本 早 紀	3 組	保 坂 麻 衣
1 年 1 組	小笠原 佐智子	養護教諭	青 嶋 昌 子
2 組	丹 澤 麻理恵	事務主査	若 月 春 江
2 年 1 組	横 内 洋 子	栄養教諭	末 木 絢 奈
2 組	小 澤 彩 子	特別支援教育支援員	秋 山 直
3 組	◎保 坂 由 起	学校司書	芦 澤 彩
3 年 1 組	平 出 定		

◎研究主任 ○研究副主任 ◇ブロック長